

先だって六年生は、二泊三日の修学旅行に行きました。その二日目、忘れられない光景がありました。太秦映画村を十分楽しんだ後、月田小の一行は、宿に向かっています。宿に着くと、二日間お世話になったガイドさんとの別れがあります。奈良から京都への二日間、ガイド役としてお世話をしてくださった学生ガイドさんです。

五分少々で宿に着くという頃、担任の西原先生が、「旅館に着いたら、ガイドさんにお礼の言葉を言うのは、オサムくんだったよな」と言われました。その途端「えっ、忘れとった！」とオサムくんは頭を抱えます。目をパチくりさせながら、落ち着かない様子。そうこうするうちに、あつという間にバスは宿に着きます。

子どもたちは、めいめい、荷物を持って降りて行きます。バスの最後尾に取り残されたオサムくん。その席に着いたまま降りようとはしません。どうすればよいのか分からないといった面持ちです。その時、不意に佳子さんが、「オサムくん、しおり貸して！ペンも貸して！」と声を発します。言われるまま慌ててリュックサックから取り出して手渡し、ほっとしたかのようになり、オサムくんはバスを降りて行きます。

オサムくんのしおりを手にするや否や、一気にお礼の文章を書き始める佳子さん。既に、宿

の前で、他の子どもたちは整列しはじめています。

もはや時間に余裕はありません。刻々と時間は経ちます。しおりを手にして三〇〜四〇秒。「書けた！」と言って、佳子さんは、バスから滑るように降りて、端っこに整列していたオサムくんにしおりを開いて手渡します。

オサムくんは、深々とお辞儀をして、そのしおりに書かれたお礼の文章を大きな声で堂々と読みあげたのでした。

その後、誰一人、「忘れとったんか」などと友をなじる子はいません。こんなこと当然といった風で、このことを話題にする子もいません。むしろ、当の佳子さんも、何も言いませんでした。今でも、この光景を忘れることが出来ません。

さて、私が思うに、佳子さんは、バスの中で、いろいろなことを瞬時に思ったんだと思います。

・オサムくんの窮地を何とか救いたいと思った！

・二日間もお世話になったガイドさんに、きちんとお礼の気持ちを伝えたいと思った！

・何としても、月田小の六年生としてきちんとした態度を示したいと思った！

こんなことを思っているうちに、あつという間にバスは宿に着いてしまします。佳子さんは、バスから降りようとしないうちにオサムくんの様子を見守ります。オサムくんは固まったままです。そこで、佳子さんは先のような行動に出たのです。

このように「思う」ことは、実現するものです。もし、思わなければ、先のような行動が生

まれるはずはありません。

今でも忘れられないその美しい光景を、翌週の児童朝礼で紹介しました。もちろん、仮名での紹介です。

「思いは必ず実現します。もし、思ったことを成功させよう、達成させよう、とするなら、強く思うことです。イチロー選手は、小学生のときから、将来野球選手になる夢を強く思っていました。胸の奥がツーンと痛くなるほどの強い思いが、今のイチロー選手を作り上げたのです。皆さんにも、「○○したい」という思いを抱いてほしいものです。

・本を必ず一日一冊読もう！

・逆上がりが出来るようになろう！

・先生の話をよく聞いて、賢い子になろう！

と思えば、それは、必ず実現します。その秘訣は、ずっとずっと強く思い続けることです。続けてもう一人の成功者の例を紹介しました。

直木賞作家・浅田次郎さんは、小さいころから小説が好きで好きでたまらない子どもでした。こんなに面白い小説なら、自分がその小説を書いてみたいと思いました。そして、中学一年のとき、小説家になろうと思うのです。

高校二年、原稿用紙九〇枚の小説を書いて出版社に行きます。高校三年、原稿用紙二〇〇枚の小説を書いて意気揚々と出版社に行きます。

でも、簡単には小説家になれません。

高校卒業後、いくつもの仕事をしながら小説家になる夢をずっと抱き続けます。時間があれば本を読み、コツコツと小説を書き続けます。それから二〇年後、四十代になって小説家としてデビューするのです。今では、有名な作家の一人です。

なぜ、私が小説家になれたのか。それは、一途な思いがあったからだ、浅田氏は述べられています。

成功した人には、共通することがあります。

稲盛和夫氏は、次のように指摘します。

心に描いたとおりになるのには、……心に描く思いというものが、強烈でなければならぬのだらうと思うのです。それは、同時に持続した思いでなければなりません。強烈で持続した思いであったときにはじめて、現象として現れるのです。稲盛和夫著『成功の要諦』（致知出版社刊）

修学旅行、一日目の夕飯時、一人ひとりの夢を聞かせてもらいました。

夢を実現するための成功哲学、そのメッセージとして、少しでも子どもたちの心に残ればいいな……なんて思っています。

目に焼き付いた光景

先日のことです。いつものように、杉尾の県道から運動場を左前方に見ながら敷地に入りました。ちょうどその時です。三人の男の子がサッカーボールを手に、前のめりになるように勇んで運動場に入ってきました。

そこで、思いがけないことが起きます。

低学年のひとりの子が早く遊びたくて仕方ないと言うように勢い込んでボールをポンと蹴りました。しかし、全くその受け入れ体勢になっていなかった三年のヨシオくん、顔面でもろにボールを受けてしまったのです。

その瞬間、私は車を停めてその成り行きを見守りました。

ヨシオくんは、ほっぺに手をやり、目をむき出すようにして痛みを耐えています。

顔の表情からこっちまでその痛みが伝わってきます。

すると、そばにいた三年のカツオくんが、何とそっと手のひらをヨシオくんのほっぺに伸ばすではありませんか。そして、何度も何度もやさしくなでているのです。

あたかも「痛いなあ、痛いなあ。冷たいなあ……」と言うかのように何度もなでてやるのです。ヨシオくんはされるがまま、直立したままです。

私は、その二人の美しい光景にしばし見とれてしまいました。今でもその残像が目に焼き付いています。皆さん、いい光景でしょう。月田の子は、やはり宝です。

最近流行る合言葉

子どもたちの様子を見ようと、仕事の合間をぬっては教室に出向きます。

先日のことでした。とある教室に入るや否や、「校長先生、〇〇くんが言い訳人間になっています」と小さく私に訴えるではありませんか。

月田小の子どもたちは、実に素直な子が多いのです。始業式の日、「えー、なんでー、もうー」という言い訳人間になるのではなく、先生の言うことを素直に聞ける子になりましょう」と語ったことが、子どもたちの心にストンと入っているのです。

担任の先生曰く、「言い訳人間になっていませんか……と、よく教室で使わせてもらっています」。子どもたちの間で、先生の間で、最近の合言葉が「言い訳人間」なのです。

校長になると、もはやピッチに立つことはできません。ピッチに立ち、最前線で戦うのは、私の大事な先生方です。先生方が仕事に専念できる環境を整え、励まし、助言をし、迷う時は明確な方針を示す……そういう立場です。(元よりいいことはできていません)

ですから、一つの合言葉になっている様子。少しばかり嬉しく思っております。

保護者の皆さん、「えー、なんで、もう、また」などと「言い訳人間」の兆しがあれば、それは「言い訳人間だ」とずばり指摘してやってください。

ところで、ある方から貴重なお話を伺いました。

月田の子は、高校生になっても明らかに違うというのです。どう違うのでしょうか。

それは、高校生になっても、素直に先生の話に耳を傾けるというのです。これは、高等学校の先生から伺った話です。

皆さん、いい話でしょう。さすが月田です。月田のDNAです。

さて、いかなる仕事についても、謙虚さが必要です。謙虚さがあって地道にやり抜くことができる力があれば、必ず自立できます。世の中に役立つ仕事のできる大人になれます。

少々、能力があっても、謙虚さが無い人は、伸びません。大学を出て、五年、十年経ち再会したとき、あれほどキラキラとまぶしく輝いていた同級生が凡人に見えることがあります。学生時代に感じた差など、露ほどもありません。

五年、十年という月日の中で、どれだけ謙虚に学び、努力し続けるか、それによって人生は大きく変わるものです。これは、私自身がこれまで生きてきた実感です。

掃除を頑張る子どもたち

児童朝礼で、特に掃除を頑張っている児童一人ひとりの名前を読み上げ、取り立てて褒めました。選出の仕方は、各掃除場所の担当の先生による推薦です。ですから、具体的な根拠のある推薦です。

掃除を黙々とやれる子は、素晴らしい子です。そのような子は、誰からも好かれる人です。面倒なことにもいじけることなくやり遂げることのできる人になると、私は思っております。

実はこの春、二年間のブランクの後に赴任した際、子どもたちの掃除のやり方を見て、若干の違和感を覚えました。以前と比べ、掃除に対する子どもたちの取り組み方に甘さを感じたのです。このことを養護の先生とも相談して、その原因を探ってみました。その一番の要因は、児童数と指導する職員数の減少です。

そこで、多忙な杉山教頭先生にも掃除分担をお願いし、掃除の区分けや「黙って掃除をする」など大きく修正しました。

そして二学期になり、新たなスタートを切ったのです。

それ以降、少しずつですが掃除に対する態度が変わってきたように感じています。先月、学級評議員さんが来られたときも、「よく掃除を頑張っています」と褒めてくださいました。

ところで、イエローハットの創業者・鍵山秀三さんは、会社になると徹底して社屋をきれいにし、車をきれいにし、さらに、ほうき一本、ちりとり一つで会社付近の道路を長年掃いてこられた方です。

履き物を揃える。朝起きたら布団をたたむ。食事が終わったら食べた器を台所へ運ぶ。これらは、些細な事です。でも、このような平凡な事を徹底することに大きな意味があり、大きな差となると言われます。

鍵山さんの著書『凡事徹底』（致知出版社刊）は、一読の価値があります。お勧めします。

素晴らしい班長に拍手！

高学年になり、班長になると、通学班員をきちんと連れてくる責任を負います。

しかし、これがなかなか上手くないものです。班員を束ねる統率力が試されます。また、班員からの信頼も得なければなりません。

口先だけの班長、身勝手な班長であれば、たとえば、最上級生であろうと、言うことはきかないからです。

二学期以降になって、めきめきと班長としての自覚に芽生え、常に班員を上手く統率し、整

然と連れてくる立派な班長がいます。

あのショウヘイくんです。彼は登校した途端、玄関前に全員を一行に整列させます。そして、「きょうは、一列になつていている人がいました。気をつけてください」などと、あたかも小さな先生のように、班員をきちんと指導しているのです。五年生以下も、素直に「はい！」と気持ちの良い返事で応えています。

素晴らしい班長です。月田小の新たな一頁を開拓してくれたと、私は高く評価しています。

お天道様は見ている

校長先生が小学生になる前の頃のことです。

ある日、ユキオ少年は、母に連れられ、おばあさんの家に行きました。おばあさんの家は、家からバス停まで歩いて一時間、さらにバスに揺られて三〇分あまり。山あいにある小さな村にありました。とつぷりとお日様が西に傾いたころ……。遊び疲れたユキオ少年は、大きな倉庫の軒下に一人立っていました。

ふと気が付くと目の前に吊るし柿がぶらさがっています。そのとき、ユキオ少年は無性にお腹が空いていることに気がきます。辺りを見ると誰もいません。一瞬のためらいはあったものの、